

**平成30年度草の根・人間の安全保障無償資金協力
「エルミナ市ダールル・ベイダ保健ポスト整備計画」の事業完了**

2020年9月10日、江原功雄駐モーリタニア大使と、貧困対策と障害者支援の会代表のアブダラヒ・モハメド・グアイ氏は、「エルミナ市ダールル・ベイダ保健ポスト整備計画」に事業完了を迎えました。

この計画は日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により59,524ユーロ（約2,400,000ウギア）がエルミナ市に提供され、栄養センターが建設され、保健ポスト本館、トイレ、外壁、焼却炉等が整備されました。

江原功雄日本大使のコメント

この事業の目的は、ダールル・ベイダの約70,000人の住民に、より良い医療サービスを提供することです。新型コロナウイルス感染症の影響で、これまで以上に強固な医療体制が必要になっている今、本件を実施できたことを大変嬉しく思っています。また、事業のすべての成果が継続的な利用のために維持管理され、末永く使用され続けられ、地域コミュニティの保健医療の向上に貢献するとともに、栄養失調や感染症に苦しむ子どもを減らし、多くの母親が栄養センターの恩恵を受けることを願っています。

日本政府はこれまでモーリタニアにおいて、保健分野の支援を、保健サービスの拡充及び改善、さらに人材育成に重点を置きながら、国及び地方レベルで実施してまいりました。これらの取組みは、モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ大統領閣下の政策の重点分野にも合致するものです。江原功雄大使は、この重要な事業を通じて、何よりも両国の友情と連帯が更に強化されることを望みました。

被供与団体コメント

日本政府の寛大な供与により建設された保健ポストは、この貧窮している町にとって重要な支援であるとともに、コロナにより世界が医療的困難に直面している中において、極めて重要であり、主導的な役割を果たすものです。日本政府とモーリタニア政府の実り多い二国間協力において、草の根支援は、重要かつ基礎的な要素と言えるでしょう。

